

#### ○4番（山口裕子君）〔登壇〕

皆さんこんにちは。登壇の許可を得ましたので、ただいまより山口裕子の一般質問を始めさせていただきます。本日3日目の最後になります。質問内容が重なっている議員もありますが、それは私なりに質問したい項目でありますので、させていただきます。

まず最初に、第1番目に東日本大震災復興支援についてお尋ねいたします。

この件に関しましては、まだ私も現地のほうにボランティアとしてもかかわっておりませんし、まだ現実を見ておりませんが、8月24日に貴重な時間を得ることができました。それは、チーム武雄としてボランティアに行かれて、交流が続いている大友よし江さんと早坂静子さん、この方お二人を24日、空いた午前中に武雄市を案内する時間をいただきました。そして、一緒にお昼から講演を聞かせていただくことになり、私なりに、現地にはまだ行っておりませんが、本当に皆さんも感じておられるように、被災のすごさと今後どうしたらいいのか、このお二方が今後何も見えないという状態で、一緒にお供する中でお話を聞かせていただきました。

大友さんは農業法人を組織されていて、4世帯、50町歩の耕作をされている方です。話を聞くと、本当に今、農業政策が厳しく、なかなか経済伴わなく、でも、農業は本当にやっていかなければならないという熱い思いで耕作をされています。その方がおっしゃるには、本当に被災はひどかったんですが、2月11日に夢を描いて、新しいコンバインを買おうということで、4世帯気持ちを合わせて契約したコンバインの金額が1,200万円。そして、契約が終わって品物が来ていましたということでした。3月11日、すべてが津波に押し流されてしまったということでした。

本当にすべて夢を持って去られたような形の話聞いて、この方が、私が議員ということで、山口さん、あなたに頼みたいことがありますということでした。それは、これからの農業の大切さを、議員さんならしっかりと伝えてくださいということ、また、自然環境を大切にしてほしい、人は自然環境の中で生活をしなければならないということ、それと、食料自給の大切さをどうか訴えてくださいということをお二方から頼まれました。私も常々自分の趣旨として、農業問題とか自然環境とか上げさせていただいておりますが、この方お二人にお話を聞くことによって、また痛切に感じたところがあります。

また最後に、私たちのことを忘れないでください、ということは、私たちは本当に被災に遭ってなくて、人ごとじゃなくて、いつまでも支援をしてほしいなという熱い気持ちじゃないかなというふうに思います。あれをしてほしい、これをしてほしいとは自分たちからは言えないけど、でも、このつらい気持ちを忘れないでくださいということでした。本当にこの気持ちを、私も議会の活動としてしっかりと心に決めて、活動しなければならないなということを思わせていただきました。

それで、市長も、先ほど上野議員もおっしゃっておられましたが、本当に行動力、いち早

く動いていただいて支援活動をしていただいております。その件で、私もいろんな国の体制が悪いとか、動きが悪いとか、いろんな情報が流れてきますが、このことだけは私は自慢できるというか、武雄市はすごいというふうに思っております。今まで市長が支援をして、かかわってきて、いま一度かかわり方とか、見直さないといけなかったこととか、いろいろ出てきたと思いますが、それについて市長の感想をお聞かせください。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、大友よし江さんと早坂静子さんですね、お二方が来たときに、「武雄市の市議会議員はみんないい人ですね」って言いんさったけん、いや、決してそうじゃありませんということは申し上げました。「大部分の方はそうですけれども、そうじゃない方々もいらっしゃいます」ということを言ったら、「それはどこの議会も一緒ですね」とおっしゃいました。

余談はさておき、2つ重要な話があります。1つはスピードです。今、被災地の皆さんたちがやっぱり欲しいもの、必要欠くべからざるものを、やはり不完全でもいいから、いち早く届けなければいけないということの、このスピード感です。

それともう1つ、これと同じぐらい大事なことがあります。復興にはやっぱり15年、あるいは20年かかるかもしれない。そのときに、別に今だけじゃないんですね。だから、よくボランティア行きたかばってんが、これから仕事の忙しゅうなるですもんねとか、私はまだ小学生ですもんねとか、でも、今小学校6年生の子が10年たったときには、もう成人越しとるわけですね。ですので、その思いを持ち続けること。自分がいざ動けるとき、動かなきゃいけないときに動くこと、これが物すごくやっぱり重要なんですね。そのために我々政治家に大事なところは、やっぱり被災地にきちんと行って、泥にまみれて仕事ばして、それば自分の言葉で語らんぎ、やっぱり説得力なかですもんね。とりわけそれが求められとるとが首長なんですよ。

ですので、私は本当に、最初行くつもりなかったですもんね、チーム武雄に。どうせ僕は協調性も集団行動もできません。ですが、やっぱりいろんな方々の、黒岩議員も行けと言いなさったです。皆さんが行けと言ったことの趣旨がわかったのは、やっぱりそこに行って、自分の言葉で議会、あるいは市民の皆さんたちに言われると。やっぱり説得力なかですもんね、行かんぎ。そこは首長として本当によかったと思っております。ですので、我々は絶えずやっぱり言い続けんばいかん。裕子議員もそうだし、私もそう。ただ、私のいいところは、しつこいことです。もうしつこく、しつこく、しつこく言いますもんね。そのしつこさをいほうに向けてたいと、このように思います。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

**○4番（山口裕子君）〔登壇〕**

ありがとうございます。

ところで、いろんな支援がこれまで予定されておりましたが、現在行われている支援を教えてください。

**○議長（牟田勝浩君）**

山田つながる部長

**○山田つながる部長〔登壇〕**

武雄市といたしましては、武雄市タウンステイ&サポート構想というふうな形で、現在はキッズタウンステイということで、子どもたちを武雄のほうに呼んでということで、これにつきましては夏休み期間中に7組37人、大人まで合わせて武雄のほうにおいていただいております。この事業については今年度いっぱい行うということで実施をしているところでございます。

次に、タウンサポート「チーム武雄」ということで、被災地のほうに行きまして、現地のほうで清掃とか、瓦れきの後片づけとか、そういうものを実施するというところで、この分につきましては現在参加者を募集していると。午前中でしたけれども、市長のほうから話をしましたように、1回目、2回目、4回目につきましては募集期間を締め切ったり、いっぱいになったということで、あと3回目と5回目があいている状況ですので、ぜひ参加をお願いしたいというふうに思っております。

それともう1点、技能ボランティアということで、企業等が被災地に社員の方を派遣して、現地で技術を生かして復興支援をしていただくと、そういうところに市として支援をするという、現在のところ大きく3つの支援ということで実施しているところでございます。

**○議長（牟田勝浩君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

ちょっと補足をいたします。

先ほど山口裕子議員が、議員だからということでありましたので、それにちょっと関連しますけれども、実はきのうの宮本栄八議員の御質問の中に、石橋病院の話が出てまいりました。正確に引用すると、医療問題ですと。10月に石橋病院が閉鎖されて、入院患者様が転院先に困っておられるということですのでけれども、市としてそれに対する何かサポートはありますでしょうかという御質問がありました。

これですね、私も聞いていて、これ営業妨害やろうもんと思っていたら、私一人じゃなくて、昨晚から、さっきもですけど、私のところにメールや電話が参りました。これ本当のことでしょうかということ。やっぱり議員たるもの、正確に言わなきゃいけない。しかも正確に言っても、何を言っているというわけじゃなかとですね。ですので、やっぱりそこは、議

員だから、発言がもうやりたい放題というのはだめですよ。ただ、宮本栄八議員に言うても、平気で議決も破んさっし、栄八通信にはうそでたらめ書きんさっし、この方に言うてもせんないこととは思いますが、とにかくやっぱりそれだけ武雄市議会が注目されているということ、そして、やっぱり発言には、議員たるもの——私もそうです、政治家ですので。やっぱりそこは抑制、そして秩序、そして品格、これがなきゃいけないというふうに改めて思う次第であります。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

議員ということで、私も大友よし江さんと早坂静子さんに、本当に影響力のあって社会的貢献とか、そういう意味で仕事をされる方だから、ぜひともあなたたちにこういうことを伝えてほしいというふうに頼まれました。私も慎重にしていると思いますが、なかなかうまくいかないこともあると思いますが、それだけは気をつけて私もやっていきたいと思えます。

本題ですが、キッズタウンステイというのは12月までということですね。これが大好評でということ、3番議員の質問の中でもありました。今後、タウンサポート「チーム武雄」と技能ボランティアというのが、今後これが終わって——まだ終わっていないからわかりませんが、どのように継続していこうかなという問題と、あと、技能ボランティアは実績、どういう職業の方が実際行かれたのか、それと、今準備をされているかという実績ですね。そういうところをお尋ねしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私のほうからタウンサポートのほうだけ答えたいと思います。

タウンサポートは、先ほど議員御指摘のあったように、これだけ民間の方々を中心として、大多数ですよ、行かれるというのは、基本的にこれは全国的にも例がないことなんです。それで、陸前高田市に行かれて、5次まで行かれますけれども、その結果を踏まえて、検証した上で、じゃあ次どういう内容にするか、あるいはどういうぐらいの方々に行ってもらいかとか、あるいはどの地区に行くかというのは、その時点で判断をしていきたいと思っています。

いずれにしても、ボランティア数がもう圧倒的に不足しているんですよ。ですので、ぜひですね、ちょっとこれ全国の議員の皆様方に、うちもそうなんですけど、お願いがあるのは、ぜひ被災地に視察等含めて行ってほしいということです。特に、やっぱりまだボランテ

ニアしづらいところはありますけれども、見るだけでも全然意味が違います。ですので、これは武雄市議会の皆様方はよく行っておられますけれども、これは全国の市議会とか県議会の方々も見られておりますので、ぜひやっぱり政治家こそ、視察じゃなくて、実際に中に入って行って、本当に苦しんでおられる、塗炭の苦しみを味わわれている方々に寄り添うということでも、本当に私は意味があると思っていますので、これは10年来の仕事になると、タスクになると思っていますので、ぜひこれはお願いをしたいというふうに思っています。

もう1つの技能ボランティア等については、担当部長から答弁をいただきます。

**○議長（牟田勝浩君）**

山田つながる部長

**○山田つながる部長〔登壇〕**

技能ボランティアでございますけれども、先ほど説明しましたように、企業等が行う被災地支援活動を後押しするというふうな形でございますけれども、現在、建設業協会のほうが、武雄市のボランティアで行きますタウンサポートと時期を同じくして行きたいという申し出があつているところでございます。

以上、1件でございます。

**○議長（牟田勝浩君）**

4番山口裕子議員

**○4番（山口裕子君）〔登壇〕**

タウンサポート「チーム武雄」ですね、これが8月市報に載りました。すぐ私も、ああ、こういうチャンスがあれば行きたいというふうに思って、自分なりに行程を調節して組みました。それで、今回一般質問で上げさせていただくということで、聞き取りのときに、今何人ぐらいですかというふうに聞くと、100人のところ、まだ10人という話だったんですね。ああ、これは何かもっと声かけをして、やっぱり現場の体験、あとどういう支援をしたらいいのかなとか、すぐにでも行きたいのにとかいう人もいらっしゃったので、たくさん声をかけさせていただきました。そしたら、きょう結果的に3つのコースが埋まっているようですよ。

私は家族4人で行くんですが、1人は18歳の高校生です。家族で考えて、本当に学校の勉強も大切ですが、やはりこれは体験ですね、子どもにとっても生涯の大切な体験になるんじゃないかと思って、もう既に18歳で応募をさせていただきました。高校の校長先生にも、ということで参加させたいと思いますということだったら、もうそれは本当に実習として研修として行ってきてくださいということでした。却下されてもいいと思って申し込みを出しております。そこで、やっぱり子どもたちですね、大人ももちろんそうです。言いわけばかりして、ああだこうだと言っているよりも、実際体験していただくことが一番じゃないかというふうに私も思うし、子どもたちにも本当に現場をですね、そこでボランティア活動すると

いうことは、一生涯の宝じゃないかなというふうに思いますので、自分の管理ができて、きちんとボランティアに参加したいというならば、15歳ぐらいからこれには参加できるんじゃないかなというふうにと思いますが、いかがでしょうか。

**○議長（牟田勝浩君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

もう全くそのとおりですね。やっぱり我々はただもう、例えば朝長議員とか、等議員とか、上田雄一議員とか、いろんな皆さんたちで行きましたね、被災地に。そのときに、やっぱり物すごく劣悪な環境やったですよ。破傷風の危険性があるとか、いろんな、例えば熱射ですよ、あると。とても良好と思えない環境なんです。においも物すごくきついです。寝るところなんかは、いびきのほかに、水道もない。だから、最初の日は大小は掘ってしよったですもんね。水道もない、ガスもない、電気はかろうじてありました。でも、それも余り使うなど言いんさつとです。そういったところに、果たして子どもたちに行ってもらうのがいいのかどうかというのを、すごく僕らの中で考えたんですよ、事務方を中心に。ただ、あのときと比べると、私も陸前高田市に行って思いましたけれども、そういう部分の衛生環境というのは大分改善をしております。そういった中で、やっぱり現地に行って思ったのは、先ほどありましたように、なるべく多くの、特に子どもたちにそういう作業に従事してほしいということは思いました。私も考えを、さっきの質問で、もう変えました。大丈夫です。

しかし、じゃあ子どもたちやったら、だいでんかんでんよかかということ、それはだめです。ですので、一応条件として、保護者の同意を条件に15歳、この15歳というのは義務教育終了です。この部分に年齢を引き下げたいというふうに思っておりますので、ぜひ、学校の理解も要りますし、保護者の理解もありますけれども、一人でも多くの15歳以上の子どもたちに来てもらうということが、本当に大事なことです。これは武雄北中の生徒さんたちが行かれたときも、やっぱり同世代の人たちにもっと見てもらいたいということも聞いたんですよ。ですので、そういう意味からして、私は御提案を受けて年齢を下げたいと、このように思っております。

**○議長（牟田勝浩君）**

4番山口裕子議員

**○4番（山口裕子君）〔登壇〕**

私が聞き取りのときは、まだ10人しかあっておりませんということだったので、少し心配しておりました。しかし、きょうは3つのコースがもう埋まっているということですね。ぜひともほかの2つのコースも、満員にならないまま発車するんじゃなくて、1行程に50万円ほど、マイクロバス、運転士さんとかかかっているというふうに聞きましたので、ぜひとも100人定員で参加できるようにしていただきたいなというふうに思います。

そして、私たちのことを忘れないでくださいというのは、支援ですよ。だから、これやってみないとわからないって、私もそう思いますし、そうでしょうけど、やはりこのボランティア支援は、こういう交通費とかいろんなところを武雄市の税金を使って助成してもらっているんですが、それでもなかなかちゅうちょするものですよ。自分で仕事をしている人とか、宿泊費も自分で負担して、食費も負担してというところはですね。私はやはり、今後は考えてみますということですが、こういう支援は続けていくべきじゃないかというふうに思いますが、市長いかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

それは個人的な見解も議会の思いを超えたところで、今、私はいっぱい取材があります。一番多いのは、被災地にどういうふうに向き合うかという取材が一番私に対して多いんですね。ということはどういうことかということ、武雄市の事例を紹介することによって、全国に波及効果を期待するということだと思えますよ。したがって、もう一自治体の役割を超して、よくこのごろ使いますけれども、我々はやっぱり同じ日本人、同じ地域を助けるという意味でも、ロールモデルにならなきゃいけないと。ですので、私が市長である間は、次の選挙、どうなるかわかりませんが、とにかく当選させていただく限りは、もうしつこく、しつこく、被災地の皆さんたちが「もうよかです」と言われるぐらいになるまで支援を続けていきたいと。これは議会の皆さんたちも、市民の皆さんたちも、多くの皆さんたちがそれに賛同してくださるというふうに思っています。そういう意味でも、武雄が小さな一自治体であるにしても、これは大きな役割を今課せられていますし、果たしていると思っておりますので、しつこく、しつこくやっていきたいというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

本当にボランティアというのはハチドリの一滴と、よく言われますが、本当にこつこつと積み重ねていけば、大きなものになっていくと思うし、今回、相手先がやはりきちんとしているというところに成果が見られると思うんですね。どうやって手助けしたらいいんだろうとか、いろいろ言っている人が意外と多いわけですよ。だから、ぜひともこうやって行程をきちんと立てられて、相手先のわかるボランティアに行くわけですから、本当にこういうので自分たちも積極的に参加するということをしなればいけないと思います。

また、こういう呼びかけをする行政も協力的に、企業とかの協力とか、仕事を本当に休んでとか、市職員の方でも、これに本当に行きたいんだという話があれば、積極的に参加させるというような企業とかの協力も要るんじゃないかというふうに思います。

相手先に見える支援というのが、先ほど上野議員も言われたように、婦人会とかいろんな団体がしています。私たちもお金で募金とか、結構協力しましたが、どこに使われたのか、まだ配布もされていないとか聞くと、本当にかっかりするものですよね。私たちの障がい者団体とかも、集めたお金はきちんと障がい者団体の施設とか、そういう困った人に受け渡したりすると、ああ助かったんだなというふうに、よくわかるものです。だから、ぜひともこういう支援を続けていただきたいなというふうに思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

特に私が印象に残ったのは、この前、陸前高田市に出張した帰りに、仙台市の若林区の大友よし江さんのお住まいになっている仮設住宅に参りました。もう本当かわいそうでしたね。さっき答弁でお答えしたと思うんですけども、もう冷房とかきかんわけですよ。それで、結露はあるわ、冷房はきかんわ、それでもやっぱり体育館よりはよかですもんねと、「私たちは幸せです」と言いんさった。その中で本当に、「特に西日本の人たちには迷惑をかけています」と言うて、また泣きんさったとですよ。もうそれで胸が詰まったですもんね。そいぎ、いつ泣きやみんさっかなと思って、じっと寄り添っておったときに、「あっあっ、思い出した」って言いんさったですもんね、「これこれ」とか言うて、それで持ってきんさったとが武雄焼の皿です。そいぎ、これは武雄焼の皿で、買いんさったとかもらいんさったとかは別にして、それで、「ちょっと後ろば見てください」と言いんさったとですよ。そいぎ、「金子認先生ありがとう」と書いてあったですもんね。ああ、これとと思いましたね。それと、市長さんもう1つ、もう1つって、「亀翁窯さんよりいただきました」と書いて、それば実は皆さんに見せて回りよんさつとですよ。大友さん自身はリーダーですもんね。こういうふうに武雄の皆さんに、亀翁窯の方とか金子窯の人にようしてもらったって言いんさつとです。我々はそれが目的ではありません、全く。しかし、やっぱりそういうことの顔が見える御支援をさせていただくことによって、こういうふうに広まっていくんだって。単なる物じゃないですもんね、支援というのは。やっぱり心の支援というのは、物を通じて広がっていくというのは、あの暗くて狭い仮設住宅で、本当に一抹の灯がともることを感じました。私の腹黒い気持ちも洗われるような感じがいたしました。

ですので、そういう支援を、これは一過性のものじゃだめだと思っんですよ。ですので、こういったことをやっていく。これで大事なものは、今度ボランティアに行かれる方々は、もちろん現地で作業をしていただくことと同時に、それを思ったこと、感じたこと、しなければいけないということ、帰ったときにまた伝えなければいけないと。そして、巻き込んでいくという、次のもっと重要な作業がありますので、ぜひ現地に行かれる方々は、今90名の募集人員のうち68名が埋まりました。この議会で質問していただいたおかげで、そこからさ

らにふえました。またこれでふえるでしょう。そのときに、帰ってきたときに、もう1つ大事な仕事がありますので、ぜひ、繰り返しになりますけれども、いろんなことを感じて、聞いて、見て、それを自分の言葉として、また私たちに伝えてくださることをお願いしたいと、このように思います。

それをすることによって、納豆が——違うところで納豆の例が出ましたけれども、納豆が糸を引いていくみたいに、そして、いろんなのを組み合わせさせていく、巻き込むことによって、さらに武雄から温かい気持ちが届けられる。これが5年、10年、15年のスパンでいくことを本当に願ってやみません。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

私も4回目に家族4人と参加するようにしております。また、自分も向こうの体験とかを実際見てきて、また今後の、あと方向性とかもきちんとして出てくるんじゃないかなというふうに期待しております。

本当にみんなが支援の輪をいつまでも忘れずに、自分たちは本当に幸せだと思うんです。何一つ津波とかそういうので奪われることなく生活ができているということを本当に幸せに思って、支援をし続けなければならないというふうに思っております。

それでは、次の質問に行かせていただきます。

2番目、環境問題です。2番目の中の1番の景観計画についてお尋ねいたします。

もう新聞でも上げられておりました。これが多分3年目になったんではないかと思えます。緑のカーテンです。本当にすばらしい、毎日毎日市役所に来るときに、これだけの緑のカーテンは見かけないなというぐらいに、立派なカーテンができております。これは地球温暖化防止、それと今回の節電ですね、クーラーは随分抑えることができたんじゃないかなというふうに思えます。職員の方が手入れされているのかどうかわかりませんが、本当にこれは評価すべきじゃないかなというふうに思っておりますが、市長、いかがなようにお考えですか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この緑のカーテンは、ひとえに二重に環境課の樋渡の——親戚じゃないですよ——樋渡の本当に強い情熱と、やっぱりその継続力だと思うんですよね。最初1年目にしたとき、なかなか植えた種を入れたところが浅過ぎて、根の生えんままに上に上がっていったとですね。それば反省して、2年目はプランターの質を変えたりとか、3年目、ことしはそのやっぱり

集大成だったんですね。だから、ゴーヤの実がなるときには、僕は環境課の樋渡の顔を思い浮かべながら、やっぱり努力というのは、継続は力なりというのは、あの緑のカーテンに僕はその思いを見ました。

その上で、私がうれしかったのは、市民の皆さんたちが、これゴーヤ持って行ってよかですかって、ことしゴーヤは高かったとですね。高かったとですよ。そいけん、それゴーヤよかですかって、どうぞどうぞって、市長さんにもおすそ分けって言いんさったけん、それはよかですと言いましたけど、そういうふうに、あの緑のカーテンで新たな市民交流の生まれとるとですね。私が感心したとは、私は残業禁止令を出して、結構厳しい市長です。率直に言って、余り職員からも好かれていないでしょう。ですが、本当に感心、いや、それはうんうんって言わんでよかですよ。感心したのは、土日に職員が水ばやりにやっぱり来よるわけですね。それももう誇らんわけですよ、全然。それは順番か僕はわかりませんが、本当に職員の温かい気持ちを感じて、それが緑のカーテンとなって、たわわに実るゴーヤが一つの結果、果実となって、それが今回広まったというふうに思っておりますので、僕は単に節電とか、そういうのだけじゃなくて、本当にいろんな意味で効果を感じました。私が思っている以上の効果を感じたのが、この緑のカーテンであります。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

実際自分もアサガオで緑のカーテンをやってみましたけど、なかなか水やりとか、上に上っていくときの、あのようになかなかならないものです。本当にこれはすばらしいものだなというふうに思います。特に庁舎の建てかえなど、いろいろ話に上がっておりますが、庁舎が暗いし、何かちょっとイメージも悪いので、私は本当に緑のカーテンがすばらしい効果を上げているんじゃないかなというふうに思います。

そこでですが、冬場は、去年もそうだったんですが、そのプランターがあいて、そのまま下に置いてあったわけですね。ぜひとも私はあれを活用して、ゴーヤの終わった後には花いっぱいにしていただきたいなというふうに思っております。ヨーロッパなどはもう本当に、行政の庁舎とかそういうところでも花いっばいに彩られています。どこの家庭も今、花いっぱい運動とかがあって、花が飾られています。庁舎もゴーヤにかわって、このプランターが花になると、どんなにも美しいんじゃないかなというふうに思いますし、自然豊かで美しい環境が人を育てるというふうにも思いますので、ぜひともそのような実行をしていただきたいなというふうに思いますが、いかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

済みません、先ほどちょっと興奮して、示し忘れたんですけど、（パネルを示す）ことしの武雄市役所本庁舎1階南側の緑のカーテンなんですね。ゴーヤ、ヘチマ、ひょうたん等のつる性植物と、あとこれ民間の皆さんたちにも御活用いただいて、上西山保育園ですね、これも見事でした。市から苗を提供して、本当にこれが市役所だけじゃなくて、いろんなところに広がっていくということになりました。

そして、あいたプランターについては、例えば尾道市役所、香川の高松市役所というのは、冬になると、そのプランターに花を植えて、それを並べてあるんですね。物すごく武雄市役所の場合は、特に南側はあっちこっちから見られます。ですので、どこに置くかというのは生育の関係もありますので、それはよく専門家に聞きますけれども、花を植えていきたいと思います。ちなみに去年からことしにかけてはパンジーだったんですね。今回は何にするかというのは、今後ちょっと決めていきたいというふうに思っております。いずれにしても、花を植えていくということだけはお約束をさせていただきたいと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

ありがとうございます。

市長のみんなの政策などにも、緑のボリュームアップ事業とか、グリーンビル化の事業とかを行う予定で予算もとってありますが、なかなか自分でやってみても、花をいっぱいにすること、お金もかかりますし、手もかかるということでもありますので、職員の方も大変でしょうから、いろんなボランティアの方とか、それが得意な方とか、そういう方のお力をかりて花いっぱいになれば、庁舎も明るくなるんじゃないかなと思います。

ドイツのほうに視察に行ったときには、みんな町並みが赤のペゴニアだったんですね。そこは町で決められるそうです。ことしは赤のペゴニアを、全部条例のように、庭先には花を置かなければならないというふうに決まっているので、全部の家から赤のペゴニアの花のぞいているという状況でした。それが本当に、来た人がですね、庁舎を訪れた人とか、行政視察も多いですし、庁舎が古くても、とてもきれいな花いっぱいであると、心豊かになるんじゃないかなというふうに思いますので、ぜひともそれは行って行っていただきたいというふうに思っております。よろしく願いいたします。

それでは、次、景観計画の中について、市長もこれは気づかれなかったのかどうかわかりません。私もこのことに関しては、6月議会で、うちの山内の行政の施設に自販機がついたということで、節電とか被災地のほうに心を寄せるといえるときに、ぜひとも新規に設置したりというのは十分注意したり、考えてくださいということをお願いしました。そして、それは身体障がい者の方の支援自販機ということでもありましたので、納得もしました。

この景観計画についての中で、1つ上げさせていただきたいのは、武雄市は平成18年8月30日に景観行政団体になりました。認めていただきました。こういうふうに進んでいくのは私も喜んでいましたし、市長も景観に関してはとても熱心に取り組んでいただいているので、喜んでおりましたが、また、難病支援という形の、もうこれは印刷がされておりますが、武雄市図書館の駐車場わきに設置されました。ぜひとも私は、このとき6月議会が終わったばかりだったので、きっと市長は知らなかったのかなというふうに、いいほうに考えようと思いましたが、とても残念でした。あそこの図書館は文化施設でもありますし、駐車場でありながら、とても緑がたくさん植わっていて、いい環境であります。考えてほしいのは、自販機とか、それがすべていけないんじゃないんです、私は。今、どんな自治体も環境のことを考えて、自販機コーナーとか飲食コーナーとか、きちんとビジョンを立てたような環境政策ができていくわけなんです。だから、そこまで市長はわかっていたらと思うのに、7月の新聞に載りました。難病支援ということで自販機を設置しましたということですね。これに関して市長の見解をお聞かせください。

**○議長（牟田勝浩君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

難病支援の方々私のところに来られたときに、もう自販機でしか支援ができないという気持ちについて、それは一定の公を所管する市長として、何らかやっぱり支援をしたいということは思いました。その時点で政策目的は間違っていなかったと思うんですけども、まさかあそこにどんといくというのは、それは私の監督不行き届きです。ですので、やっぱりあのエリアというのは景観を保全しなきゃいけない。しかも、青が悪いと言っているわけじゃなくて、あの人工的な青というのが、果たして後ろの御船山になじむのかということ、そして、れんが調の公共施設の前に、あのビビッドな青が合うかといったことにして、あと場所ですよ。結構見にくくなっているということからして、これはちょっと別に押しつけるわけでも何でもないんですけど、教育委員会が所管しているところなので、余り言うと、またどうかなというところもあるんですけども、場所を変えたいというふうに思います。教育委員会と協議をして、やっぱり思いとやっていることが違うというのは、それはいけないことだと思っていますので、そういうふうに思っています。ですので、中は確かに飲食スペースがないんですよ。ですが、もっと人の行くところで、目立たないところってやっぱりあるんですね、図書館の中にも。ですので、あの場所の置き方については、よく言えば、気が入り過ぎたということ、それはぜひ御理解をしてください。もし景観的に、じゃ、そぐうかということ、そぐわないということですので、それは両者のバランスをとって、場所の変更に着手をしたいというふうに思っております。

**○議長（牟田勝浩君）**

#### 4番山口裕子議員

##### ○4番（山口裕子君）〔登壇〕

このことが新聞とかテレビのニュースで流れたんですよね。6月議会で私も一生懸命言っていたつもりだったんですが、ああ、これくらいだったのかなというふうに、すごく落胆したところがあったんですね。でも、私は一番大手の清涼飲料水会社も、課長さんとかエリア長さんたちにお話も聞いてみました。それと、難病支援のネットワーク、NPOの方にもお話を聞きに行きました。そして、いろんな方のお話を聞いて、3月11日を境に、いろんなものが、やっぱり視点が変わってきているというのも大きいと思いますが、やはり慎重にしていけないといけないなというものを、私自身、議員として環境ばかり言って、本当に御苦労されて、難病の方たちが活動資金にと言っているのを、片方ばかりからも言えないので、いろんな話を聞いてきました。6月議会では、身体障がい者の方の支援の自販でした。それは、今、身体の方たちは武雄市に2台置かせていただいているということでした。大手の会社に聞くと、それは支援自販機というふうについて、要望があれば協力させていただいているということで、武雄市には市が管理している観光支援ですね、れんが色の自販機、あれが13台あるそうです。それと難病支援ですね、あとまた子育て支援という形で、この基金も協力しますよということで、大手の清涼飲料の会社が請け負っておられるそうなんです。これは本当にありがたいことだと思うんですね、企業がこうやって協力しますよということをしていただくというのは。設置する側は、店舗とか民間のお店にも、もう至るところに、ありとあらゆるところに自販機が設置されております。それで、今回節電とかを考えたときに、やはり行政のそういう施設から、きちんとした整理をしていかなければいけないんじゃないかなというふうに思っておりますので、ここで上げさせていただきました。子どもたちのマナーとか食育とかを考えたときも、設置場所、きちんと自販機コーナー、飲食コーナー、そういうところの区別をつけるべきだと私は思います。

それと、これは企業の方もおっしゃったんですが、うちは山内町の支所に一番最初、表についたときも、私はそれに意見させていただきました。でも、北方の支所の前にあるのも、これも何だか本当にと言ったら、企業の方も、ちょっとあんまりあれはおかしかなというふうにもいただいたので、やっぱり設置場所というところは、そういうコーナーを設けて置くべきじゃないかなというふうに感じました。企業の方もいろんな努力をして、支援になればということなので、ここの理解も私たちはしなければいけないかなというふうに思っておりますが、節電とか環境とかを考えたときには、行政が率先して、こういう今後どうあるべきかの景観計画は、きちんとビジョンを立てていただきたいなというふうに思いますが、文化施設とか、そういうところには設置してはいけないというふうに、武雄市の中では決まっていらないのでしょうか。

##### ○議長（牟田勝浩君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

自動販売機の設置場所の件でございます。

景観計画、景観条例につきまして施行しておりますが、現在のところ、自動販売機の設置についての届け出の義務はなく、規制することはできないというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

そうですね、景観条例の中に入っていないということだったら、こういうこともあるということですが、ぜひとも、市長答弁いただきました、今後ですね、そういうところをきちんと見ていくということもありましたので、私はもう武雄市、旧山内・北方にもとてもすてきな景観があります。文化会館の庭園なんかも見事です。そういうところにぽんと、支援だからとかいう形で今後あらわれるんじゃないかなという懸念がありましたので、ここできちんと市長に答弁を求めたいと思っておりましたので、また、そのところで見解があればお願いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

例えば京都の四条ですよ、四条なんかは、例えばマクドナルドは普通の一般の地域だったら、黄色のMに赤のバックですよ。しかし、例えば京都の四条であるとか、パリの中心地は黄色に白、あるいは黄色に茶色なんですよ。先ほど京都の話をしました、さらに延長すると、例えばコココーラ、普通は赤ですもんね、その赤も茶色になります。ですので、その景観に溶け込むような色をするというのは、今多くの心ある企業は、それはよくわかっていますので、いたずらに規制をするのではなくて、要するに、そこは企業の発意を促したいというふうに思っていますし、それで、これこそが、これはおかしいじゃないかとか言うことは、それは議会の場だと思っています。ですので、これは多くの市民の皆さんたちがごらんになられています。そういった意味で、この自販機ね、政策目的はいいんだけど、場所がやっぱり違うんじゃないかという指摘そのものが、私は民主主義の議会としてあり得る話であると思っていますので、こういったことをぜひ御指摘を賜ればありがたいと思っております。もちろん私どもも今回の御質問等を踏まえて、次、こういった指摘がないようにはしていきますけれども、これやっぱり計画をつくってどうこうの話じゃないんですね。実際置くときに事前協議をして、やっぱりこれは置いたほうがふさわしいかどうかということをしたほうが、より建設的だと思いますので、そういう意味で、私も注意深く、そこは見て

いきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

ありがとうございます。

難病支援のことで、やっぱり実際話を聞くと、私の代表する知的とかの団体は、やはりそういう手帳が、療育手帳とか身体障がい者の手帳とかがあって免除されたりするところがあるんですが、やっぱり難病の方たちはそういうのがなくて、特定疾患だけの指定で、医療費の減免があるぐらいだったり、活動していたり、皆さんの御理解を得るところで、本当に大変御苦労されているということもありましたので、今回また設置場所ですね、そういうところを考えて設置していただけたらいいと思います。

あと少し思ったのは、某会社の課長さんに聞けば、一番省エネタイプで一月1,800円から2,000円の電気代だそうです。だから、余り売れないというか、ジュースが販売できないところに置くと、直接にその電気代を支援したほうがいいんじゃないかなとかいうふうに、いろんな形が出てくるので、そこら辺の設置するときの検討をきちんとしていただきたいなというふうに思います。

あと、今はスペシャルオリンピックス、私がそこに行ったときも、これが佐賀市にまた新しく設置されますというときは、スペシャルオリンピックスのが2つ来ていました。あとはサガン鳥栖とか、いろんな支援がっております。だから、本当にそれで活動がうまくいってたり、アピールができていたりとしているので、それは本当に素晴らしい企業の支援じゃないかなというふうに私は思っております。設置する側の、やっぱり行政側がそういうところを、今から先は見詰めていただきたいと思います。

ちょっと1つの例で、私、どんだんどの森とかアバンセの施設とかに行くと、あれだけの駐車場とあれだけの公園の広さにも、一台も自販機は置いていないですよ。やっぱりアバンセに入ると、きちんとコーナーが設けてあって、それは陰のほうにですけど、そういうふうになっています。どこも今気を使って、そういう環境問題に取り組んでおりますので、このところはしっかり武雄市も取り組んでいただきたいなというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

そしたら、次に節電についてお尋ねいたします。

かなり効果を上げているようですが、武雄市において、いろいろな節電の実態、あとは一番力を入れて行われた項目などをお聞かせください。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

## ○樋渡市長〔登壇〕

ことしの夏は、幹部職員とも話しましたけれども、やっぱり節電を第一にやっ払いこうと  
いうことで、ありとあらゆる節電の対策をとりました。その中でも大きいのは、1つは残業  
禁止令であります。これはやっぱり勤務時間外に仕事をするということをする、少数しか  
残っていないのに、空調はつけておかないといけない。あるいは、空調はとめたにしても電  
気はつけとかないといけないと、これ非常に節電にとっては敵なんです。

それともう1つは、ウルトラクールビズであります。これはきのう前田副市長が答弁した  
とおり、私、当初嫌やったですもんね。もうウルトラクールビズって、また市長がさせよ  
るとやろうとかって。もう、そういうキャラですから。ですので、そうじゃなくて、これは職  
員が、やっぱりこれはこうしないと、もう勤務効率が下がりますと。そして、節度ある服装  
でやりますのでと言われて、泣く泣く判を押しました。押させられました。そういうことで、  
すべての責任は私がとりますけれども、これも今思えば、やってよかったというふうに思っ  
ています。

そういったことで、そして、先ほど申し上げました緑のカーテンですよね。こういうのを  
幾つも幾つも積み重ねることによって、これから述べますデータになるんですけど、ただ、  
1つ私が申し上げたいのは、特にウルトラクールビズのときに、私がびっくりしたのは、当  
時すぐNHKの全国放送で流れたんですね。そして、これはちょっと申し上げましたけれど  
も、その翌日に私はアメリカ人の国務省の友人から、武雄の出とるぞと、もちろん英語でし  
たけど、来て、あらっと思っ、何やろうかと思ったら、いや、半ズボンの出とるって。  
そのときのアメリカのABC放送のヘッドラインニュースで流れたそうです。ですので、福  
島原発の事故があっ、節電をするので一番効果的なのは半ズボンですということ、その  
ときの2番目のニュースが菅さんの不信任だったそうです。ですので、そういう意味で世界  
が求めていることが、そういうふうに出てきたという意味では、日経新聞の下の「春秋」と  
いうコラムのところに紹介されたりとか、朝日新聞の、これ全国版ですよ、特集に組まれ  
たりとか、さまざまこれがスタイルとして出てきたということについて、我々はもっと自信  
を持っていいのかなというふうに思っています。いずれにしても、節電、節電のかけ声ばっ  
かりだと、やっぱりだめなんです。やっぱり行動を起こしてこそだと。あるいは見てくれ  
をどうするかということも含めて、私は今本当にうれしいのは、議員の皆様たち、私の目の  
前におられますけれども、だんだんだんだんネクタイが外れて、ワイシャツになってとい  
うのは本当にいいことだと思いますので、ぜひ今後、これは12月までなんですかね、（「今  
月」と呼ぶ者あり）今月。もうずっとこうしてほしいですね。やっぱり議会が変わらないと。  
もうみんな見えていますので、何かいっぱい着込んだりとかじゃなくて、やっぱりそれこそは  
大人の自覚として、自由にしていればいいなというふうに議会運営委員長に強く申し入れ  
たいと、このように思います。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

これはすごい実績だなというふうに私も思います。ノー残業で2割節電とか、我が家でもやってみても、10%の節電にもなっていないんですよ。家庭で努力しても、なかなか実績に出なかったりして、これを武雄市役所が行動を起こして、ここまで20%削減できたということはすごいなというふうに思います。

昨年私がドイツに行ったときも、ドイツが脱原発を起こすには、きちんと原発なしで電力供給ができるような政策を打ち出してからのことなんですよ。そこはエコビレッジを計画されていたり、エコ住宅、年間通して1万円も光熱費がかからない住宅を提供したりとか、そういう政策があって、脱原発というふうになっているんですよ。だから、私はやっぱり行動をみんなが起こさないと、脱原発にはならないと思っているし、私ももう本当に未来の子どもたちに安心・安全な世の中を残してあげたいという気持ちで、ここで活動させていただいておりますので、ぜひとも、もうどんどん行動を起こしていただいておりますが、これを継続して力にしていくような、自然エネルギーに持っていくような力に結びつけるような政策を立てていってほしいなと、それを武雄市から発信していってほしいなというふうに思いますが、再度市長の見解をお聞かせください。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

やっぱりこれね、遠慮したらだめだと思いましたね。僕もだんだん遠慮の気持ちが出てきて、ちょっとやっぱり、これしたらどがん思わるとかなとか思ったり、だんだん人並みになってきましたので、やっぱり思い切ってやりたいと思います。もうみんながどぎもを抜くことをやって、やったことによってそれが大きく力となって、もう初秋議員が、うんうんうなずかれていますけれども、ああいうなずきのレベルぐらいに、どんどんやっぱり波及をさせていくということが大事なんだろうというふうに思います。そがんせんぎんた、マスコミも取り上げんとですよ。もう思いました。それも日本で最初にやるというのがポイントだと思いますので、ぜひ議会におかれても、自由な服装を認めてほしいと思います。重ねて山崎議運委員長をお願いをしたいと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

そうですね、少しずつの積み重ねも大切だと思います。ぼんと打ち出すのも大きな行動力になっていくと思いますが、毎晩毎晩といたしますか、毎日毎日、これはいいことだと思います

す。もうドキュメンタリーのように、福島事故の悲惨さ、もう本当に涙なしでは見られないという番組が毎日毎日あっております。あれを本当に人ごとにしないように、私たちは自分たちがどうやったらいいのかという行動とともに、ぜひとも武雄市がリーダーであられるように行動を起こして欲しいなというふうに思いますので、節電の取り組みですね、そして、脱原発に向かって大きな力を発揮していただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、最後の安心・安全のまちづくりについて質問させていただきます。

これは、もう連続で私が3回ほど議会で言わせていただいている内容ではあります。前回、大震災のあった後でこの質問をすると、被災地のほうにそういう予算が行くということで、道路行政もますます厳しくなるということで、あきらめなければならないというか、またほど遠いことになったのかなというふうに私は思ったんですが、ちょっと考えますと、考えるというよりも、たくさん子どもたちが津波から逃れられないで亡くなっていった命と、毎日毎日、危険通学路を歩道なしで歩いている子どもたちの命の重さは一緒じゃないかなというふうに思いまして、いま一度ここで安心・安全のまちづくりということで質問させていただきました。

ちょっと実態を、今まで見せたことはないんですが、実態をちょっと見ていただきたいと思います。（パネルを示す）これは自転車の前1台と後ろ1台来ています。対向車のトラックは、もう既に中央線を割っています。というのは、手前に歩行者がいるから、このような状態になるわけです。これは私がこれを撮るために、長い時間ここにいるわけじゃないです。朝の通学時間です。先週ですね、もういつもこういう状態で子どもたちは通学しています。中学生は自転車です。

それと、これですね。（パネルを示す）ここから軽自動車に対向車で来ています。そしてトラックですね。歩行者が集団登校という形で来ておりますが、ここが、歩道はもちろんないですよ。路肩を調べると5センチから30センチですね、そういうところを今山から西小学校まで行くのに1.5キロほどあります。下の山というか、下ったところは、県道に出たところからですね。幅のかげんはあるんですが、午前中はこれくらいのトラックが行き交うところなんです、下校時になると、ダンプが仕事上、数多く運ばないといけないので、しょっちゅう行き交います。車道の幅は、はかりましたら2.6メートルです。でも、ダンプの大きさは2.99メートル、幅あるそうですね。だから、どうしても子どもたちがいつも危険な状態にさらされているというわけですね。

私がUターンして帰ってきて21年になるんですが、その状況がますます悪くなっていくのに、この歩道の確保と——道路の拡張はさておいて、歩道の確保だけお願いしますと訴えてきたんですが、ここだけが置き去りにされているような気がします。いろいろですね、言う人がいなかったとか、要望せんけんくさとか、いろんな話が出ましたが、私は子どもの命は

皆同じだと思いますので、いま一度この危険さ、通学路の歩道のなくて歩いていっている子どもたちのことを考えて、政策を立てていってほしいなというふうに思います。

今、子どもたちが歩いていて、ここが見えないのは、ここが最小に路肩が5センチとかになっていきます。ここが両方ですね。逃げ道がありません。だから、接触はたびたびあっていますが、本当に、そこで亡くなったということはありません。しかし、子どもたちが本当に被災地のところでたくさん子どもたちが亡くなったニュースを聞いていたら、私はこの命もあの命も一緒だなというふうに思って、再度上げさせていただきましたが、いかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

確かに、ここは武雄市内の中でもやっぱり一、二を争うぐらい危険なところであります。私も今ここをランニングしていますけれども、私も吹き飛ばされそうになるぐらい、ダンプはやっぱり風圧のあるけんですね、私も飛ばされそうになるぐらいのところでありました。しかも、この問題は、横に逃げられるところがないんですよ。すぐ溝があつたりとかしますので、ここは本当に危険だということでもあります。

そして、これ、ただね、物理的に言うと、現段階ではこれは不可能なんですよ。というのは、ここを管理する武雄土木事務所に聞いたところ、まず路肩に余裕がない、しかも、大野のところから順々に行っているというのは、これは計画どおりやっているわけですよ。でするので、そういう意味からしても、ちょっとこれは計画からは外れて、大野のところも危険です。今山のこの部分というだけの話ではありません。

もう1つが、じゃ、市独自で何かできないかといったところで、これは浦前議員の前の、水尾団地の前のところで一部市が緊急に仮歩道を設けるということをやりました。これは非常に好評だったんですが、この方法をとれるかどうか確認したんですけれども、背後地がなかなかとれないんですよ。です。これは背後地がきちんととれた場合には、市が仮歩道ですよ、これはちゃんとやります。です。これは地元の皆さんの協力がないと、やっぱりこれは無理なんですよ。それと、いずれにしても、この工区の早期完成というのは、もう絶対に必要です。これは今まで以上に県等に積極的な要望を行います。これがハードの話です。

ソフトの話。やっぱりここは危なかつた。本当にそこを痛感しました。この御質問の前に、再度言いますが、私も走って、思いましたけれども、これいつ命を落とす事故があってもおかしくないところでもあります。そういった意味で我々が、これちょっと所管がここは公安委員会になるかもしれませんが、時間帯の制限、特に大型車ですよ、軽とか、それは幅がいいです。生活にも使われる。特に大型車のダンプ等については、時間帯制

限の要望をしようと思います。ですので、子どもたちの通学の時間、2つありますよね、朝と夕方と。これについてはエリアを決めて、私の名前で要望をしたいと思っています。ただ、これは物すごくハードルが高いんですよ。だから、市長が要望したからといって、あるいは知事が要望したからといって済む問題じゃないんですね。ですが、これはだれかが声を上げなきゃいけない。ハードは時間がかかります。ですので、ソフトで声を上げ続けることに、私もこれは一生懸命取り組んでまいりたいと、このように考えております。ですので、現状認識と、何をやらなければいけないかという認識は、議員と同じであるというふうに伝えたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

もう何度も私は上げさせていただいておりますので、いろんな事情があるということもよくわかっております。大野のほうの入り口が途中まで完成して、武内と山内の境も完成して、大きな車道と歩道付きの立派な道ができておりますので、入り口出口はわかりませんが、両方が立派な車道、歩道があるので、どんどん大型ダンプが入ってくると思うんですが、中に挟まれたこの道がこのような状態では、子どもたちを守ることはできないと思うんですね。

私がこの一般質問の通告を出したときに、多分公民館だったと思いますが、看板を慌てて立てに来られていました。そのときの様子を見ていた人が、ほんなごてここは危なかですって、ちょっと恐ろしかですってということを言いながら、立てておられたそうなんです。市長もおっしゃいますように、本当に危ないです。私も歩くのは怖いです。大人のほうが怖いんじゃないかなというぐらいにあります。ここは行き先にAコープとか病院があって、みんな歩いて行きたいわけですね、高齢者の方も。だから、高齢者の方たちからも、私に痛切にお願いがあるところなんです。いろんな要望が上がっているところがあると思いますが、ここは通学路なので、子どもたちの命を守るというところで、どういう努力、私たち保護者は月に2回、朝立つようにしているんですね、安全のため、子どもたちに気をつけていきなさいよという声かけをするために、月2回立ちますね。それがもうずっと続いております。だけど、教育委員会のほうとしては、この子どもたちの安全面から考えて、歩道がないというところで、教育長のほうの考えはどんなふうに思っているのでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

子どもたちの安全・安心につきましては、一番気を使うところでございます。交通事故につきましても、これまでお話しいたしましたとおり、各学校徹底した指導をやっているつもり、それでも事故が起こったりするわけでございます。

西小学校の場合は、今、話にありましたように、月2回は、そのように立っていただいて街頭指導を、通学の指導をしていただいているということでございますが、これまで毎週水曜日の下校時は集団下校をしていたということでございますけれども、今年度は朝も通学時は毎日集団登校にしているというようなことでございまして、学校も計画的に一生懸命頑張ってくれておりますので、私どももまたあわせて協力して、考えていきたいというふうに思います。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

集団登校とかやっていて、私も婦人会で愛の一声運動とか、きょうも朝立ってきたんですが、集団登校で行っているときこそ怖いなというのを感じます。そこの集団に接触したときとか、それも怖いと思うし、私がこれを、PTA活動とかして要望を上げていた、本当にUターンして21年になりますが、こういう答弁で今まで来ているというわけですよ。そして、状況が家1軒に1台とか2台の自家用車時代から、今は4台ぐらい、皆さんそれぞれ車に乗る時代になりましたし、ダンプとか大型トラックが最近通るようになったということも含めて、非常に厳しい状態になっているということを考えて、歩道の確保は必ずしなければならないと私は思います。

武雄小学校の下の通りが、ポールを立てて歩道の確保をされています。そういうふうには何か安全対策がとれないかというふうに常々お尋ねしておるんですが、これじゃ全く5センチから30センチしかない路肩では、通学路を本当に気をつけて来てくださいと言うだけでは過ごせないんだと私は思うんですけど、対策が何かほかにありますでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

議員再三の御指摘でございますが、現在のところ、私どもも見に行きましたが、やっぱり白線と路肩がもうほとんどないんですね。だから、ポールを設置できない状況です。仮に無理にしても、かえってこれは交通事故を引き起こすような感じだと思うんですね。したがって、対策が現地ではなかなかとりにくいと。そして、しかもあそこの道路は最低幅員なんですね。一応2.75メートルという車線幅が最低なんですけれども、それが2車線あるだけで、5.5から6メートルぐらいしかないはずですよ。ですから、ちょっと現状の対策が非常に難しいように思っています。

したがって、先ほど市長答弁されましたように、背後地の畑等を利用しながらできないかなと思ったんですけど、ちょっとそれも不可能なようでございまして、今のところ、大型車の規制を公安委員会に御相談してみようということでやってみようというふうに思います。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

今回再度上げさせていただいたというのは、やはり東北地方の震災で子どもさんをたくさん亡くされた親御さんたちの悲しみとかを見ていたら、ああいう悲しみを絶対、こういう歩道のないところですよ、もし事故があったときに、そういう思いをさせてはいけないというふうに私は強く思いました。

あと6月議会で一般質問が終わった後に、今山の若いお母さんが、仕事が終わって私のうちに訪ねてこられました。山口さん、こんなふうに要望していただいているとは知りませんでしたと。本当に私たちはどうしたらいいんだろうと思っていましたと、署名なりなんなり、必要というならば何でもしますけどというふうに言ってこられましたので、やはりこれは子どもたちの命はすべて一つなので、同じなので、これはもう一度早急に対策を練らなければいけないというふうに思ひまして、今回上げさせていただきましたので、ぜひとも無理だという中ではなく、できるだけ歩道の確保、努めていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

これで私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（牟田勝浩君）

以上で4番山口裕子議員の質問を終了させていただきます。

ここで宮本議員より、12日の一般質問の際の発言について、訂正の申し出がありました。

内容は、「10月に石橋病院が閉鎖されて」と発言されましたが、事実は、石橋さんは閉鎖されないということで、訂正で「11月に石橋病院の療養ベッドを廃止されて」というふうに申し出がありましたので、これを許可したいと思います。

7番宮本議員は3年前の懲罰委員会でも戒告を受け、さきの6月議会ではみずから表現を注意するということと言われましたけれども、今回の懲罰委員会で議決された陳謝を拒否され、地方自治法第130条第1項に反し、拒否されました。その拒否された内容の中には、一応読ませていただきたいと思えます。「秩序を守るべき議員の職務に省みて、今後は表現にも十分注意し、誤解を招かないようにいたします。ここに深く反省し、誠意を披瀝します」という文章を拒否されました。今回は、民間の経営にも及ぼしかねないような発言であります。（「そうです」と呼ぶ者あり）議会でもルールに従い、再三再四発言及び通信の内容の表現に注意してまいりました。なかなか聞き入れてもらえませんが、今回もさらに強く厳に注意したいと思います。よろしいですか、宮本議員。（発言する者あり）

以上で本日の日程は終了いたしました。